

新潟県知事

花角英世様

インフルエンザワクチンに関する

緊急要望書

令和2年9月14日

新潟県町村会長 小林則幸

インフルエンザワクチンに関する緊急要望

県内においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が引き続き懸念される中、季節性インフルエンザの流行期が近づいている。

この二つの感染症は、発熱や咳など共通する症状が多いことから、季節性インフルエンザの流行を抑えることが、住民の健康を守るとともに、新型コロナウイルス感染症に対応する医療機関の機能を確保するためにも、極めて重要である。

については、一人でも多くの県民がインフルエンザワクチンの予防接種を受けることができるよう、下記の事項について緊急に要望する。

記

- 1 国においては、過去最大のインフルエンザワクチン供給量を確保したと公表しているが、成人量で約 6,300 万人分となっている。

今後インフルエンザワクチンの需要が高まることが想定されるため、供給量の更なる拡大について、国に要望していただきたい。

また、医療機関が少ない町村部において、高齢者や妊婦、小児を始めとして、予防接種を希望する住民が確実に受けられるよう、ワクチンの適切な流通の確保に向けて、県としてリーダーシップを発揮していただきたい。

2 コロナ禍における医療崩壊を防ぐためにも、インフルエンザ予防接種の促進は喫緊の課題であることから、自治体が行う接種費用の助成所要額について、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を増額するよう国に要望していただきたい。

また、接種費用の助成については、本県においては現在市町村が先行しているが、感染症対策及び医療施策の広域性と重要性に鑑み、県としてインフルエンザワクチンの接種促進について、具体的な対応を行っていただきたい。